

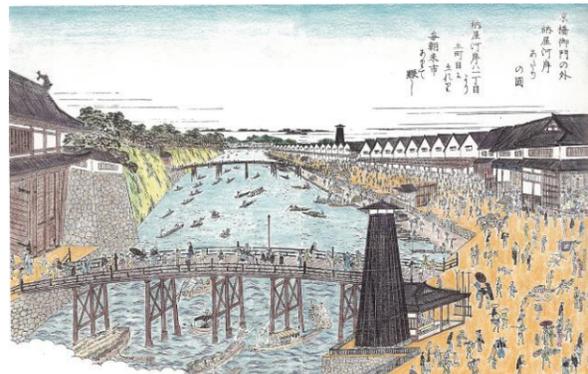
景観 こぼれ話

城下町としての、中心部の歴史

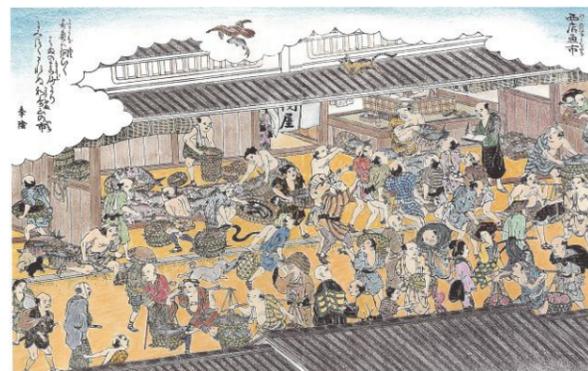
関ヶ原の役の後、1600年に浅野幸長が入国したことによって本格的な城下町の建設が行われ、その後250年に渡り徳川御三家の城下町として大きく発展してきました。和歌山城の周りには内堀と外堀が掘削され、町割が整備されました。今のまちの骨格も、当時の骨格が引き継がれています。

現在の市堀川（内川）は、外堀に当たります（右図上）。今では25mですが江戸時代には36mと広く、荷物を積んだ船が行き交い、輸送の大動脈となっていました。河岸にはたくさんの蔵が並び建っています。京橋は木造で、橋を渡った南側には京橋御門があり、一般の人はお城に入ることができませんでした。

西ノ店では毎日魚市が開かれ（右図下）、商人だけでなく、武士、僧侶、巡礼、女性らも通行し、約200年前の城下町の日常と活気が伝わってくるようです。東隣の万町では野菜や果物の市が立ち、一帯は城下の台所として多くの人でにぎわいました。



京橋御門の外 納屋河岸あたりの図（画：岩瀬広隆）



西店魚市（画：西村中和）

額田雅裕解説、芝田浩子彩色「城下町の風景—カラーでよむ『紀伊国名所図会』—」（ニュース和歌山,2009）

まちなかでの、新たなにぎわいの創出

ぶらくり丁界隈や和歌山城などを含むまちなかエリアでは、夏には紀州おどり（ぶんだら節）や紀州よさこいを踊る恒例イベント「おどるんや」があり、多くの人が踊りを楽しめます。他にもまちなかを舞台として、春と秋の2回食べ歩き・飲み歩きのイベント「城下町バル」が開催され、同日にはJAZZの生演奏を行う「ぶらくりスイング」や、約8000本の竹の灯籠が夜を彩る「竹燈夜」があります。

イベントのある日は特に、店から店へ、会場から会場へと、楽しみながらそぞろ歩く人の姿でいっぱいになり、まちなかのにぎわいの風景をつくり出しています。



紀州おどりを踊る様子



「城下町バル」開催中の様子



わかやまし 景観ガイド

魅力
満載！



上：和歌山城天守閣からみた市街地 下：滋野医院

中心部地域の景観

中心部地域は、紀の川左岸の河口に位置する、平坦な平野の広がる地域です。

和歌山市のシンボルである和歌山城を中心に、ぶらくり丁をはじめとする中心市街地（まちなかエリア）がとりまいています。

古くから城下町として栄えてきた地域で、近世から近代にかけては産業都市として発展してきました。戦時の大空襲により市街地は大きな被害を受けましたが、土地区画整理事業などの大規模な事業により、けやき大通りをはじめとする現在の都市の骨格が整備されました。



問い合わせ先

和歌山市 産業まちづくり局 都市計画部 都市再生課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地 Tel(直通): 073-435-1048

魅力マップ

～中心部～

嘉家作丁のまちなみ

旧堤防の道に面して民家が並んでいます。堤防の外側へ掛け渡して作られた建物は、玄関を入ると下階へ下りる階段があり、その先に部屋が設けられており、このような家屋構造は「懸造り」と呼ばれています。



町家のほとんどは建て替わりましたが、まだ一部残っており、この場所の当時の面影を感じさせるものとなっています。

県立近代美術館

建築家黒川紀章の設計により建築されました。建物の正面には巨大な灯籠が並び、大きな庇が数多く設けられています。和歌山城の天守閣がすぐ近くにあり、緑豊かな環境のなかで周囲との調和を意識して設計されています。



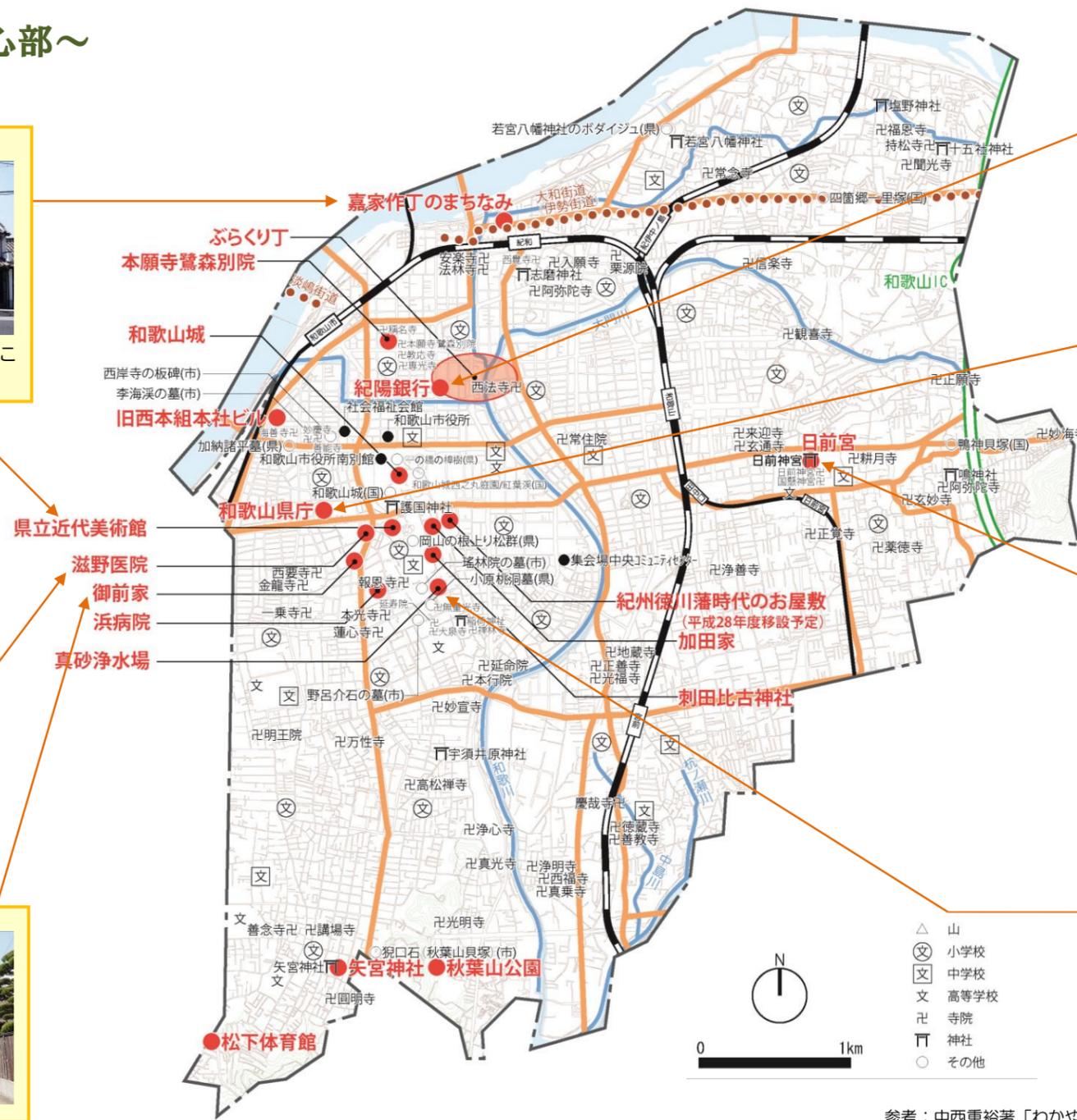
滋野医院

大正10年(1921)に建てられました。この時代には大変珍しく、構造は鉄筋コンクリート造となっています。低層で東西に長く伸びた建物と、外壁に施されたタイルの垂直線とのバランスが特徴的な建築物です。



御前家

昭和13年(1938)に建設されました。平屋の棟が主屋で、その北側には離れがあり、廊下で接続されています。主屋の入母屋屋根と下屋による水平線を強調したプロポーションが美しい建築物です。



紀陽銀行本店

外壁には和歌山県の芸術家保田龍門によるレリーフの作品が掲げられています。和歌山県に本店を持つ唯一の銀行です。



和歌山県庁

建物は左右対称のネオルネッサンス風デザインです。玄関庇の軒先や屋上のパラペット廻りには「テラコッタ」が付けられ、凝った細部のデザインや装飾がすばらしく、見所の多い建築物です。



日前宮

1つの境内に日前神宮と國懸神宮の2つの神社が左右対称の配置で位置しており、総称して日前宮と呼ばれています。鬱蒼と木々が茂った広い境内の中に、2つの神社があり、静かで落ち着いた中にも、神聖な雰囲気があります。



真砂浄水場

現在も市内に給水している現役の浄水場で、大正時代の建物が現在も使用されています。発電機室はほぼ立方体の形で、大きな開口部にはスチールのサッシュがはめ込まれています。



参考：中西重裕著「わかやまワクワク探検隊—明治・大正・昭和たてもの物語」（和歌山新報社,2002）



桜の季節の和歌山城

コラム 和歌山城

和歌山城は天正13年(1585)に築かれました。城は国の史跡に指定され、城とその周辺は「和歌山城周辺景観重点地区」に指定されています。戦火で焼かれたものの、市民の熱意と浄財によって昭和33年(1958)に天守閣が再建されました。虎伏山の頂上に白亜の三層の天守閣が位置しており、石垣には紀州特産の青石が多く使われています。

虎伏山には、さまざまな木々や草花が育っており、中でも春になるとソメイヨシノを中心に約600本の桜が咲き乱れ、訪れる人々を楽しませてくれます。

コラム まちの記憶 ～歴史を伝える近代建築～

昭和20年(1945)の戦災により大きな被害を受け、市街地は焦土と化しましたが、これを免れ現在まで受け継がれてきている貴重な建築物があり、「近代建築」と呼ばれています。

広い敷地を持ち青石の塀が立派な木造のお屋敷、左右対称のプロポーションやタイルをあしらったデザインなど洋風の意匠が凝らされた建物等で、近世から近代にかけて本市が発展した様子を伝えてくれます。

中心部に点在するこれらの建物を訪れ、歴史を感じてみてはいかがでしょうか。



左上：滋野医院 右上：加田家
左下：和歌山県庁 右下：旧西本組本社ビル